

# 情報サービス産業白書 2015

## 「変化するグローバル時代の顧客との市場共創に向けて」

### アンケート中間報告説明会 開催

平成 26 年 6 月 24 日、JJK 会館において情報サービス産業白書 2015「変化するグローバル時代の顧客との市場共創に向けて」アンケート中間報告説明会が開催された。参加者は 92 名。

説明会では、最初に白書部会長の明神知氏((株)オージス総研 エグゼクティブフェロー ビジネス イノベーションセンター長)より本年度テーマの背景と狙いについて説明があった。主な内容は以下のとおり。

- モノとモノが繋がる IoT(Internet Of Things)・ウェアラブルデバイスの登場など、ハードとソフトの融合は急速に進展している。また、農業や医療等、新たな領域にも IT の活用が進みつつあり、かつてない豊かな IT 社会が実現しうる時代に突入した。
- 情報サービス市場は、景気回復や社会保障・税番号制度を始めとする新たな需要を背景に改善に向かいつつある。しかし、中長期視点では、従来型ビジネスモデル偏重からの脱却を求められる状況に変わりはない。
- 景気回復を背景に、顧客も市場開拓に取り組む中、IT 活用に対する期待を高め、IT 活用領域の拡大や、技術革新を背景とした IT の開発形態(主体・プロセス)の変化も見られる。顧客の IT 活用の変化に伴い、顧客の IT 部門の位置付けの変化や役割の拡がりも見られる。
- JISA 会員企業には、このように変化する顧客と共に自身も変革し、IT 活用による市場創出を推進することが期待されており、それがひいては JISA 会員企業の市場創造につながる。JISA 会員企業が顧客と共に新しい市場を創造するためのアプローチ方法を明らかにする。

引き続き(株)三菱総合研究所の江連三香氏(情報通信政策研究本部サイバーセキュリティグループ主任研究員)より、白書アンケート集計結果について説明があった。主な内容は以下のとおり。

#### 【ユーザ企業の IT 活用の状況】

- ユーザ企業の業況は引き続き好調。消費税の上昇や国の施策の変化による業況への影響が高まっている。
- IT 活用では、事業創造、経営企画・経営改革、グローバル化の重要性が引き続き

き高まる。一方、事業創造のために、自身でニーズを明確化できない、技術への対応が難しいという課題もあり。

- デジタル戦略は 4 割弱が明確な戦略として位置付け、専任の責任者を 3 割が設置。必要性を明確に認識していない企業と二分化の傾向。実行者としてネット事業者等の活用も。

**【情報サービス事業者のサービス提供と市場創造の取り組み】**

- ユーザ企業の情報化関連投資規模や業績の変動は業況へプラスの影響。IT 技術者の需給状況がマイナス要因に。
- 顧客が IT 活用したい領域のうち、特にグローバル化に遅れ。顧客ニーズ掘り起こしの課題は、事業化への拡大方法が最大だが、ニーズの発掘・理解、ニーズを見据えた提案、いずれのフェーズも課題は大。
- 顧客のデジタル戦略の実行者となっているのは 4 割。
- 新規市場創出には加速支援者の整備が必要。

白書部会では現在情報サービス産業白書 2015 の編纂作業を鋭意進めており、本年 10 月頃に刊行の予定である。

(田畑)